



インタビュー・東北御庭会会長 業界成長の鍵は「集合体として機能させる」こと



鈴木宏之氏

鈴木 宏之氏の横顔

仙台市泉区南中山1-22-6
株式会社スズキグリーン 代表取締役
森林開発公園勤務を経て、昭和48年に
スズキグリーンを設立。同55年法人化。
市場のニーズに応え発展していく業界の
あり方を追求し、活動を広げておられる。

共同・協力化によるパワーの強化を図ろう

現在、我々エクステリア業界は、住宅産業からみれば住環境の質を左右する重要な役割を担っていると思います。施主の要望も本物志向が強まり、プロに任せたいという傾向が高まっています。今こそ、エクステリアデザイナーというポジションを確立し、浸透させる時だと実感します。そうした背景を踏まえて、これから真剣に考えなければいけないのは、業界全体が「共同、協力化」という意識を持つことだと思います。例えばPRの共同・協力化ということと言いますと、御庭会のメンバー会社がそれぞれの施工例を載せたパンフレットを共同で作成し活用する…といったことも一つの方法だと思います。エンドユーザーにとってエクステリアの設計・施工の発注先といえば、主だっちはハウスメーカーとホームセンターです。我々エクステリア屋は後々のメンテナンスも含めて長くお付き合いを頂くために、それ相応のパワーをつけなければなりません。そのための共同・協力化です。

CADの発展的活用方法を メーカーと一緒に考えていきたい

平面図だけでプレゼンテーションをしていた頃からみれば、現在CADで描いた平面、立面、パースを用意してお客様にプレゼンテーションできることは、理解度や説得力と言う点で格段の進歩です。ただ、今後さらにCADを有効活用していくことを考

えた場合には、個人でできることに限りがあると思います。そこで、是非、メーカーを交えて考えていきたいことは、販工店間の「CAD活用方法情報交換会」のようなネットワークの構築です。

今あるネットワークの発展・強化ということになるでしょうか。

そこでは、メンバーが図面作成や処理での試行錯誤の中で見出した様々な工夫や、活用方法を集積し、その経験談などを交換しあう…そうすれば、さらにCADの利用効果と作業効率が高まると思います。また、その様な情報が集積されることによって新しいCAD開発のヒントにもなり、ひいてはそこが最新情報の発信基地になります。そうなれば、我々も鮮度のいいパワーを吸収して循環させることができます。是非、メーカーもアクションを起こしてほしいですね。

有機的なつながりのある御庭会をめざす

これからはますます他県や他地域との情報交換が必要だと感じています。御庭会活動に関しては、ゆっくり交流の時間を持って情報交換し、有機的なつながりを持ちたいですね。同じ悩みの共有で勇気づけられたり刺激され発奮するなど、多くのプラス要因が潜在していると思うので、御庭会の全国展開を待たず、現状をベースに全国交流会を広げたいと考えます。また当情報誌「EX.VIEW」を、各地の事例や経営情報収集、メーカーや会員間の意見交換の場として活用したいと思っています。

御庭会ネットワークイメージ



INDEX

■ インタビュー／東北御庭会会長 鈴木宏之氏	1
■ 設計レポート／松浦産業株式会社	2
■ 設計レポート／規松緑化建設株式会社	3
■ '98年春新商品ダイジェスト	5
■ 御庭会通信	表4